

営農情報



J A月形町 農産販売課
 空知農業改良普及センター
 TEL:0126-23-2900
 FAX:0126-22-2838

秋まき小麦起生期追肥の時期がやってきます！

まもなく、秋まき小麦は起生期を迎えます。ほ場の生育状況を確認して、最終的に 650～700 本/㎡の穂数を確保できるように管理を行いましょう。

ドリル播きでは生育旺盛、大豆間作では生育ムラが大きいほ場が散見されます。生育を確認して下記の窒素施肥量を参考に追肥を行って下さい。

品種	起生期茎数	窒素施肥量の目安(kg/10a)	
		例年、穂数過多で細 麦傾向のほ場	例年、肥料切れ等で穂 数が確保しにくいほ場
きたほなみ	1,500本/㎡以上	0～2	2～4
	800～1,300本/㎡	2～4	4～6
	800本/㎡未満	4～8	
ゆめちから	きたほなみの起生期茎数を参考に最大9kg		

※他管内では、起生期追肥をせずに幼穂形成期以降に重点的に追肥することで高収量の事例が報告されています。起生期の生育状況を良く確認し茎数の増加を抑えて歩留まりの良い小麦を作りましょう。

ほ場の起生期茎数を確認しましょう！

1. ドリルまきの場合 1畦50cmの茎数を1㎡に換算します。

例)ドリル13cm、1畦(50cm)当たり茎数390本

$$100 \div 13 = 7.69 \div 2 = 3.845$$

$$390 \times 3.845 = \text{約} 1,500 \text{本/㎡}$$

2. 間作小麦の場合畦間等を目安に一定面積の茎数を1㎡に換算します。

例)0.198(畦間66cm、幅30cm)㎡当たり297本

$$100 \div 0.198 = 5.05$$

$$297 \times 5.05 = \text{約} 1,500 \text{本/㎡}$$

※ほ場内で生育が平均的な場所を選定しますが、精度を高めるために複数箇所計測しましょう！